

今回お世話になったのは…

靴・ランドセル・製造 三の和金宮



昭和24年創業の靴製造メーカー。もともとランドセルや学生靴を主に扱っていたため丈夫なものはもちろんのこと、大事なものを運ぶ鞆なので細部までこだわり、長年使えるよう

data 東京都足立区竹の塚4-9-13 TEL.03-3850-5555  
FAX.03-3850-5517 E-mail: kanemiya@dk2.so-net.ne.jp

心がけて製作を行っている。実は今回のジャパンレザーアワード一般審査員参加者に贈られた景品のブックカバーとIDホルダーもここで製作していたのだ。

本日の一日上司  
金宮秀王さん

2代目社長。創業者である父親の跡を継ぎ、昭和52年に入社。仕事をしながら靴協会が行う中堅技術者研究会へ参加し鞆作りを学んだ。



突撃!  
編集部員体験  
レポ

# 鞆メーカーに体験入社!

革製品を製作している現場は一体どんなところだろうか。そんな謎を解明すべく、編集部員が製造メーカーに体験入社し、普段目にするのではない製品作りの裏側をお届け。



体験者  
編集部 恒川

不器用なあたり少々不安な人選だが、「革製品作りといえどエプロンで決まりでしょ!」と気合いは十分。初のメーカ一階に挑む

## ( Step: 4 ) 部品加工 & 糊付け



Step:4-2 糊付け

ヘラの先を使って糊をつけていく。テーブルの端を利用して糊が台に付かず、塗りやすいのだ。決して大量に塗る必要はない……



Step:4-1 パーツ加工

IDケースのパーツ加工。窓部分のクリアシート貼り付け(上)や、ネンという工具を使用してラインの飾り付け(下)などを行う

## ( Step: 3 ) コバ磨き & コバ塗り



Step:3-2 コバ塗り

端の毛羽立ちを抑え、塗料がのりやすいように液剤で整えることをコバ磨き、そこに塗料を塗ることをコバ塗りという。これできれいな断面に



Step:3-1 説明

ここからは2階に移動してテーブル作業。これからの工程、使う道具について教わる。かと思いきや、生い立ちの話など、どんどん横道にそれていくのであった

## ( Step: 0 ) 準備



Step:0-3 まずは革のお勉強

革のことを知らずして革製品作りはできない。ということで、まずは革のお勉強から。牛革を広げながら部位の解説や繊維の伸びる方向など革の性質について学ぶ



Step:0-2 ってあれ?

エプロンでつかみはOK! と気合いを入れてきたつもりが、よく見れば金宮さんは普段着である……。制服はエプロンという思い込みはここに来て早くも打ち砕かれた



Step:0-1 挨拶はきちんと

機械や道具が所狭しと並び工場内で上司金宮さんを見つめ、気合とは裏腹に少々緊張気味のご対面。お手際がどうかをお願いします、と心の中で願っていたことは言うまでもない

## ( Step: 5 ) 縫製



平台と呼ばれるマシンを使用。表面と裏面で縫い目が異なるため、革のどちらの面を上にして縫うのかに注意しなくてはならない。スピードは足元のペダルで調節することが可能なのだが、これが慣れていないとなかなか難しい



本当ですか!  
ほめ上手ですねー。

## と、ここでランチタイム



えー、そのお弁当揚げ物ばかり!

今ダイエット中なんだよ。

鞆がたくさん並ぶ事務所にてお昼休憩。金宮さんは普段隣接している自宅で食べているそうだが、今日は「仕方がないな」と付き合ってくれた



Step:4-3 裁断

部品を組み合わせた後、不揃いになった端を揃えるために再度裁断。柄の柄などで角をなで付けた後、断面にコバ磨き、コバ塗りを行う

## ( Step: 1 ) 裁断



直断機と呼ばれる大型の裁断機を使用し、革をパーツごとに切り分けていく。革の性質を理解し、製品に合った型取りをしなくてはならない。革が余ることなく裁断するために、大きめのパーツから進めるのがコツ



Step:0-4 道具に慣れよう

製作現場ではさまざまな機械、道具を使いこなさなくてはならない。そこで、ジャパンレザーアワード一般審査員参加者に贈られる景品のサンプル作りで練習することに

## ( Step: 6 ) 取り付け



ストラップとの接合部分に使われる革は曲げやすいように薄くする為、表面には補強テープを貼る

ネックストラップを取り付ける

全てのパーツが縫い終わったら飛び出した糸をきれいにカットし、最後の工程IDカードのネックストラップ取り付け。カシメウチと打台、金槌を使用して革と金部品を接合していく

## ( Step: 2 ) 革漉き



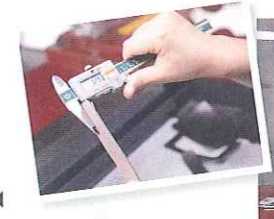
Step:2-2 コバ漉き

後の作業をしやすく、また仕上がりが見栄えを良くするために端など部分的に革を薄くする作業。切れ味が悪くなってきたら、機械に内蔵された砥石で刃を研ぐこともできる



Step:2-1 大漉き

革は分厚く、厚みも均一でないため、刃で削ぎ落とし薄くする「革漉き」の作業。まずは大漉きで革全面を漉き、ノギスと呼ばれるゲージで測りながら適当な厚さになるまで繰り返す



手を突っ込まないように注意して。